2019 年　１月１日発行

点訳通信

99 号

日本ライトハウス情報文化センター
点字製作係
発行責任者　竹下　亘
〒550-0002　大阪市西区江戸堀 1-13-2-8F
TEL 06-6441-1028（点字製作係直通）

昨年１２月、出張で松江を訪れた際、小泉八雲記念館に足をのばしてきました。

少年時代に片目を負傷し、写真撮影の時は決まって目が見える方の横顔を多く撮っていたことや、来日してからは教鞭をとりながら家計を支えていたことなどを知りました。

日本に移住してそれほど年月を重ねていない中で、日本文学を書けたのはなぜだろうと想像をめぐらせながら、「耳なし芳一」などの作品を再び読むと、また一味違ったものに感じられました。

さて、今年は「点訳のてびき」が１７年ぶりに改訂されます。大きな規則変更はないものの、現在の言葉の用い方に即した規則になっています。新たな規則でステップアップするとともに、これまでの規則をブラッシュアップし、より読みやすい点字図書を製作できるよう「猛進」してまいりますので、本年もどうぞよろしくお願いいたします。

（点字製作係　奥野真里）

（©わんぱぐ）

【 休館・開室のお知らせ 】

１月　８日（火）　ボランティア活動開始
１月１２日（土）　開室
（ハッピーマンデーの振替休館日ですが、点字製作係は開室します）
３月　６日（水）　休館（ボランティア交流会にご参加ください）
３月２１日（木）　休館（春分の日）

第３１回専門点訳講習会

「教科書・教材実践コース」を開催

１０月３日（水）～１０日（水）に、専門点訳講習会「教科書・教材実践コース」を開催しました。昨年度、教科書・教材点訳が初めてという方を対象に講習会を行ったところ、多くの方にご参加いただき、教科書点訳への関心の高さを痛感しました。そこで、今年度はすでに教科書点訳に関わっておられる方の応用コースを「国語」「理科」「社会」など教科別に開催しました。

これまで点訳した資料の中から疑問点や仮題を、事前に受講者から提出していただき、その内容に基づいて講習を進めたのですが、どの教科においても、共通した課題は、図・グラフ・表・年表・系図・写真などの画像中心の内容をどのように表現するかということでした。

例えば、図やグラフを点図で表す場合、何を主にして情報を伝えていくか。技術的にどのように表現したら分かりやすくなるのか。不必要な情報を除くのであれば、どこまで簡略化すればいいのかというさまざまな判断に悩みます。

また、表にする場合、一目で内容を把握できる墨字のレイアウトとは異なり、点字では情報を細かく分割し、まとまりごとに書いていきます。そのまとめ方が「表の捉え方 ＝（イコール） 理解」にもつながり、慎重に吟味する必要があります。

地域の学校で学ぶ視覚障害児童・生徒の教科書をつくるうえで、図表等の情報の取捨選択はかなり難しい作業です。情報を盛り込みすぎると、かえって分かりにくい（読みにくい）教科書になってしまいますので、伝えるべき情報かどうかを判断するために本文を深く読み込んで見極めていくことが必要です。

点字教科書は授業に間に合うように提供しなければならず、検討する時間が十分とれないのも事実です（後々見直すと反省点ばかりということもあります）。ですが、子どもたちの学びを支える大切なものですから、教科書全体を把握し、内容と向き合って丁寧に製作していくことが大切だと思います。以下、講習会の感想です。

国語の講習会を受講して

林　さゆり（ボランティア）

講習を受け終わり、まず初めに思ったのは、もっと経験を積まなくてはいけないなという事です。資料の中で、第３指示符という言葉が出てきた時、頭の中に「？」がいっぱいでした。どういう形の記号か、どういう時に使うのか分からず、「それで、大丈夫かな」と思ってしまいました。古文の動詞の活用表で、どのような方法がありますかと聞かれたのですが、良い案が思い浮かびませんでした。

しかし、フローチャートで登場人物の心情や場面説明がされている例を検討した際、矢印が原本に書かれているからといって、必ず矢印のまま点訳しないといけないわけではないことや、小見出し符などを使って書き流しの形式で表す方法があるなど、参考にしたい事もありました。

他の方の資料を見ても色々なパターンがあり、本当に難しいと思います。また（教科書以外でもそうですが）、内容を理解して点訳しないといけないので、学年が上がると内容が難しくなり、それも大変なことです。

これからも、皆さんに教えていただきながら教科書点訳に協力できればと思っています。

理科の講習会で思ったこと

大川靖子（職員）

実際に点訳したものの中から、質問や苦労・工夫したものを事前に提出していただき、それをもとに講習会がすすめられました。当日、講師や受講者から提案された工夫点や、注意すべきポイントなどをまとめました。

【点図を作る注意点】

・必ずプリンタで打ち出してじっくり見て触って確認すること！
点図やグラフは触って理解できなければいけません。理解できる点図を作るためには、点訳者は点図をパソコンの画面上で見るだけでなく、必ずプリンタで打ち出して、じっくり見て、触って確認し、理解することが必要です！

・図の説明文は簡潔に分かりやすく！
図の説明文は原本にある言葉を踏まえて作りましょう。１つの文は点字で２行程度の短い文にします。なぜなら、説明しすぎて理解できなくなることもあるからです。１つの図を説明するのに、文は３～４つくらい。あまりだらだらと説明しないこと。学校の教科書なので、先生の補助があるものだとして作って良いでしょう。

【点図の工夫】

・点筆の裏やお箸などを使って、点を薄くしたり、消したりするなどの作業も場合によっては必要です。この作業は必ず点訳者がしましょう。

・裏点を使用する工夫もあります。けれども、裏点があると言わないと分からないことが多いでしょう。

・教科書に写真が多くなってきています。写真や図のキャプションを大切にして、点図を作りましょう。

受講者からは「情報量が多くて、取捨選択に困る」「注記をどこに入れたら良いか迷う」などの声がありました。

ある学校では、教科書を利用する生徒さんのことをよく理解した方が点訳に携わっておられました。生徒さんの性格や理解度を熟知した上で作ることができるというのは、なんと心強いことでしょう。そして、同じものを一緒に理解できるという喜びは、互いの絆を深めてくれることでしょう。

私は教科書・教材を点訳したことはなく、点図を作ったこともありません。みなさんの工夫や苦労にただただ感服するばかりの時間でした。

２０１８年度「点訳ボランティア養成講習会」が修了

５月から始まった、２０１８年度点訳ボランティア養成講習会が、１２月２０日で修了しました。

１月から５人の新人ボランティアの方がグループに加わりますので、どうぞよろしくお願いします。

（敬称略）

火曜日　岩谷　裕子（いわたに　ひ ろ こ）
水曜日　岩本　幸子（いわもと　ゆ き こ）
　　長井　純子（な が い　じゅんこ）
木曜日　木内　孝子（き う ち　た か こ）
金曜日　林　　季子（は や し　す え こ）

（©わんぱぐ）

「点訳のてびき 第４版」まもなく発行

全国視覚障害者情報提供施設協会発行の「点訳のてびき 第４版」が、２０１９年２月に発行されます。ただし、発行後すぐに新規則に切り替わるのではなく、しばらくは現在の規則で点訳します（「サピエ図書館」に新規則でデータ登録するのは、２０２０年４月からです）。

当館では、まず「点訳のてびき 第４版」の内容を検討した上で、勉強会を開催したいと思います。詳しい日程については改めてご連絡しますので、購入後はしばらく手元に保管しておいていただきますよう お願いいたします。